

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA



第196回定期演奏会

The 196th Regular Concert

Visions of
Japanese Instrument Ensembles II

邦楽器アンサンブルの展覧Ⅱ

2009年
9月8日(火)
午後7時開演
(6時30分開場)
津田ホール

- ：主催：特定非営利活動法人日本音楽集団
- ：助成：平成21年度文化芸術振興費補助金(芸術創造活動特別推進事業)
- ：協賛：津田ホール

◆ 日本音楽集団：<http://www.promusica.or.jp/>
E-mail office@promusica.or.jp



一、螺旋 — 邦楽器アンサンブルのために — 秋岸寛久作曲 委嘱初演

[尺八]加藤秀和 [三味線]箕田弘大 [箏I]山田明美 [箏II]田村法子
[十七絃]城ヶ崎美保 [打楽器]高橋明邦

「らせん」は、螺旋階段のような立体図形と平面図形の「うずまき」に大きく分けられます。私が思いえがいていたのは「うずまき」の方。「なら『螺旋』の方が正しいんじゃない?」と思ったあなたは相当な「らせんマニア」ですねえ。でも、「線」より「旋」の方がタイトルにふさわしい気がしたんです。曲名なんてそんなもんです、私の場合。

ある目標物に対して常に直角方向に歩いていると円が描けますよね。少し進行方向を内側に傾けてその角度を保ったまま歩くと螺旋が描けるはず。そんなことを思いながら作曲しました。って全然わからないですね。与えられた文字数ではちょっと表現づらいです。今回、箏は二十絃ではなく、あえて十三絃を使用しました。長い間五音音階を奏でてきた楽器ですので、それに逆らうことなく、伝統的音階に基づいた無理のない音のみを使用しました。とても心地好い音楽になったと思いますよ。ちょっと内側に傾いていますが。



秋岸寛久

二、恋—こひうた—歌

夏の章 尺八・箏・十七絃のための 尾形敏幸作曲 委嘱初演

[尺八]米澤浩 [箏]熊沢栄利子 [十七絃]宮越圭子

さて前章「春」は私にとって、満開の桜の華やかさよりも、その華やぎの裏にある憂鬱でけだるい気分＝春陰、春愁、といったものを聴き取り、表現の中核に置いた。この「夏」では「春の章」の名残りの、というよりもそこに収まり切れずに押し出されて来た、幾つかの核音やテクスチャの敷衍を中心に、各楽器の即興的な相互インプロヴィゼーションと、全体的に乾いた現代的な抒情を求めた。

どこまでも続く紺碧の海と空、そこに一筋の飛行機雲…のような誰もが思い描く真夏の象徴はひとまず置いておいて、「炎天の書簡差出人不明 敏幸」という俳句の如く、炎天に立ち向かわざるを得ない人間＝連日の高温多湿ゆえ人間の頭脳の集積回路までもが狂わされ、あげくの果てに白日夢を見てしまう、またそのために起きる喪失感＝こうした現と虚の入り混じった感覚を、日本の楽器たちに託してみたかった。



尾形敏幸

三、邦楽七重奏のための“坊っちゃん・考”

瀬戸～無鉄砲～マドンナ～事件～清へ 福嶋頼秀作曲 委嘱初演

[笛]西川浩平 [尺八]原郷隆 [三味線]山崎千鶴子 [琵琶]首藤久美子
[二十絃]山田明美 [十七絃]久本桂子 [打楽器]望月太喜之丞

きわめて特徴的なキャラクターを持つ7つの楽器たちは、時にぶつかりあい、時に融和する…その様はまるで、漱石の小説『坊っちゃん』の個性豊かな登場人物たちのよう。愛すべき楽器たちの奮闘ぶりを、『坊っちゃん』の登場人物や場面をイメージした音楽にのせ、ぜひともお伝えしたい。



福嶋頼秀
写真© 藤井亜紀

全体は3つの曲から成る。

1曲目は小説の舞台「瀬戸」のイメージ。

のどかな尺八ソロや歌舞伎の下座音楽風な“波”の音が、7つの楽器のアンサンブルへと発展。大太鼓の16ビートが鳴り始めると、現代的なサウンドの“汽車”が走り出す…。

2曲目の前半は、笛と小鼓が協奏曲風に活躍する。
明るいフレーズ、お囃子風なリズムは、「無鉄砲」な坊っちゃんの様。
うってかわって後半は琵琶と十七絃の音楽。美しく少し風変わりな「マドンナ」の登場である。

3曲目は三味線の変拍子のフレーズが先導して「事件」が発生する。
派手に盛り上がった後、最後は哀愁ある二十絃箏のソロに導かれて「清へ」の愛情が表現される。

… 休憩 …

四、箏四重奏曲 **みみらくの島** 高橋久美子作曲 委嘱初演

[箏Ⅰ] 桜井智永 [箏Ⅱ] 田村法子 [箏Ⅲ] 久本桂子 [十七絃] 城ヶ崎美保

「五島列島の三井楽(ミラク)の島へ行けば、亡き人の顔を見ることが出来る」という伝承があり、それは万葉集や蜻蛉日記にも詠まれている。

かつての三井楽は遣唐使の日本における最後の寄港地であり、交通上の要地であった。と同時に遣唐使の生死の境を定め多くの人々の冥土への旅立ちの場所でもあった。すなわち、この地では誰もが神仏の加護にすがるほか術はなく、生への蘇りを切望し、また死霊の冥福を願ったのである。

このようなことから、生者と死者の行き交う場所とされたのが「みみらくの島」である。

この箏四重奏曲「みみらくの島」では演奏者に響き(魂)を伝え合う役割を担わせ、それぞれの旋律が絶え間なく交差し、時には一体化しながら、あの世ともこの世とも言えない第二の世界「みみらくの島」がステージ上で展開されればと願っている。



高橋久美子

五、邦楽合奏のための **疾風怒濤** 川崎絵都夫作曲 委嘱初演

[笛] 西川浩平 [尺八Ⅰ] 米澤浩 中村仁樹(助演) [尺八Ⅱ] 原郷隆 難波竹山(助演)
[三味線] 工藤哲子 山崎千鶴子 [琵琶] 久保田晶子 藤高理恵子
[箏Ⅰ] 熊沢栄利子 高橋はるな [箏Ⅱ] 桜井智永 彦坂恵美
[十七絃] 宮越圭子 佐藤里美 [打楽器] 尾崎太一 廬慶順
[指揮] 田村拓男

音楽用語に「オスティナート」という言葉があります。同じ音型やリズム、和音進行を執拗に繰り返すことを言います。特に低音が同じパターンを刻むことが多いのですが、うまくいくと非常な興奮やカタルシスを生むものです。例えばラベルのポレロや伊福部昭先生の「ゴジラ」のテーマ曲などを思い出して頂けると良いと思います。僕もとても好きな形式ですが、同じことを続けても飽きずに弛緩せずに、グイグイと前へ進んでいくように作ることは大変難しいことです。

そこで唐突ですが、今度はベートーベンの弦楽四重奏曲「ラズモフスキー」第3番Op.59-3の第4楽章です。この曲はフーガ風のメロディが執拗に繰り返されていくことで、強い運動性と精神性を実現しています。200年近く前に作曲されたにも関わらず、色褪せるところか未だに世界中で演奏され、現代に生きる我々の心をも魅了します。これを一度はやってみたくて昔から思っていました。

『邦楽器だって負けちゃいませんよ!』



川崎絵都夫

●ニッポニア・ファイブ● 募集中

連続5回の定期演奏会がお得な料金でフリーパスになる他、数々の特典があります。

●ニッポニアAファイブ＝前売り定価5,000円のA指定席を5回連続15,000円

●ニッポニアBファイブ＝前売り定価4,000円のB指定席を5回連続12,000円

以上詳細は日本音楽集団事務所までお問い合わせ下さい。

●賛助会員へのお誘い●

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年間 個人会員10,000円(一口以上) 法人会員30,000円(一口以上)

【賛助会員】五十音順

法人

(株)全音楽譜出版社
(株)宮本卯之助商店
NPOトリトン・アーツ・ネットワーク

個人	青木隆	大関富枝	後藤陽子	水野正徳
	青柳堯	太田塚悦	佐藤利明	宮川慶子
	安達真五	大川壁	四反田素幸	渡辺邦子
	新井克輔	岸	棚野正士	渡辺治
	江西緑		土井恵見	

邦楽器アンサンブルの展望
CD

種々のアンサンブルの妙、
悦しさが活き活きとした
ライブの音から伝わります

日本音楽集団ライブCD
邦楽器アンサンブルの展望【I】

秋岸寛久:邦楽器のためのコンポジション
／邦楽器のためのインプロヴィゼーション
尾形敏幸:恋こひうた_歌春の章
川崎絵都夫:竹桐II
福嶋頼秀:源氏三纏

縦譜

出版されている作品は、
下記の8曲です。

- 「源氏三纏(げんじさんてい)」
(福嶋頼秀作曲)
- 「子供のための組曲」(長沢勝俊作曲)
- 「ディヴェルティメント」(佐藤敏直作曲)
- 「夏夢三景」(川崎絵都夫)
- 組曲「人形風土記」(長沢勝俊作曲)
- 「春の一日」(長沢勝俊作曲)
- 「邦楽器のためのインプロヴィゼーション」
(秋岸寛久作曲)
- 「邦楽器のためのコンポジション」
(秋岸寛久作曲)

粋に愉しむ

株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15

TEL 03(3792)8481 FAX 03(3792) 8437

URL : <http://kinko-do.com/>

E-mail : tokyo@kinko-do.com

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033

ホームページ <http://www.promusica.or.jp/> E-Mail office@promusica.or.jp